

# 香川県立保健医療大学リポジトリ

進学を希望している香川県内の高校生の進路志向  
—高校1・2年生を対象とした調査—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 知恵, 内海, 知子, Yoshimoto, Chie, Utsumi, Tomoko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/255">https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/255</a>

## 進学を希望している香川県内の高校生の進路志向 — 高校1・2年生を対象とした調査 —

吉本 知恵<sup>1)\*</sup>, 内海 知子<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

## Future plans of high school students from Kagawa Prefecture desiring to attend college — Investigation involving first-and second-year high school students —

Chie Yoshimoto<sup>1)\*</sup>, Tomoko Utsumi<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences

### 要旨

進学希望である香川県内の高校生の進路志向を明らかにすることを目的に、独自に作成した調査票を用いた郵送質問紙調査を行った。本学を受験することの多い香川県内の20高校に在籍する高校1年生および2年生1220名から回答を得られ、記述統計、学年・性別および大学等卒業後の進路の県内志向程度別に特定大学選択動機等についてクロス集計を行った。結果、以下の5点が明らかになった。

1. 進学希望動機は、「将来の就職など生活の安定のため」、「専門的な知識や技術を学びたい」が多かった。
2. 進学分野の決定理由は、「自分に合っていると思う」が多く、“男子”は「就職に有利」、「女子」は「一生やりがいがありそう」も重視していた。
3. 特定大学選択動機は、「将来の志望職業と一致している」、「自分の学力水準に合っている」が多く、“男子”は「学問の水準が高い」、「女子」は「学校の雰囲気が良い」も重視していた。また、“県内志向高群”では「通学に便利である」、「家庭の経済事情が許せる」も重視していた。
4. 進学に関する情報入手の手段として重視したのは「大学等のホームページ」、「大学等のパンフレット」、「オープンキャンパス」、「高校の先生」であり、進学に関する情報として重視したのは「卒業後の進路状況」、「入試に関する情報」、「カリキュラム」等であった。
5. 進学に関する相談相手は、「母親」が5割以上と最も多かった。

以上のことから、大学としては高校生や母親、高校教員に向けて看護職または臨床検査技師の特性や必要な能力、教育内容、卒業生の進路、入試等について情報発信することが必要である。

### Abstract

In order to clarify the future plans of high school students from Kagawa Prefecture desiring to attend college, an original questionnaire was sent to 20 high schools where many students take our college's entrance examinations by mail. A total of 1,220 first- and second-year students completed questionnaires, and the obtained data were subjected to descriptive statistics, as well as cross-tabulation to investigate the reasons for desiring to attend a specific college according to the age, sex, and extent to which subjects intended to work in the prefecture after graduation. As a result, the following were clarified:

1. The common reasons for desiring to attend college were because subjects “wanted a stable career and life”, and “wanted to learn specialized knowledge and skills”.
2. The common reason for deciding their major in college was because subjects “thought that the major was suitable for them”; ‘male’ and ‘female’ students regarded a “major that is more advantageous in terms of employment” and “work that is deemed rewarding” as important, respectively.
3. The common reasons for desiring to attend a specific college were because subjects considered that the college was “consistent with their choice of future careers”, and “suitable for their academic levels”; ‘male’ and ‘female’ students regarded “high academic levels” and a “favorable school atmosphere” as of major importance, respectively. In addition, “subjects intending to attend college in their home prefecture” placed emphasis on the “convenience of commuting” and “affordable tuition fees”.
4. Subjects placed emphasis on information (e.g., “future careers after graduation”, “information on entrance examinations”, and “school curriculums”) obtained from “college websites”, “college brochures”, “open campus”, and “high school teachers”.
5. Subjects who had sought advice on attending college most commonly (>50%) talked to their “mothers”.

Our findings suggest that it is important for our school to provide high school teachers, students, and their mothers with information on the characteristics of nursing professionals and laboratory technologists, skills required of these workers, details of college education, future careers after graduation, and entrance examinations.

**Key Words:** 高校生 (high school students), 進路志向 (career aspirations), 地元志向 (desire to stay in one's home prefecture), 広報 (public relations)

\*連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 吉本 知恵

\*Correspondence to: Chie Yoshimoto, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan

## はじめに

現在、香川県は人口減少に直面しており、少子化の進行と県外への転出が転入より多い状態が続いていることが原因と考えられている<sup>1)</sup>。その中でも県は、若者が県外の大学へ進学したまま戻ってこない傾向があり、そこから出生数が減る悪循環が起きていると指摘している<sup>1)</sup>。そして、県が平成27年2～3月に実施した、県外の大学へ進んだ学生186名に理由を聞く調査において、6割が「学部や学科が志望に合っていた」と回答したため<sup>1)</sup>、香川県内大学の機能強化は喫緊の課題と考えられ、地方創生の設計図となる「かがわ創生総合戦略」に「魅力ある大学づくり」が盛り込まれている<sup>1, 2)</sup>。

そのような中、本学は保健師、助産師、看護師、臨床検査技師の養成を行っており、学部入学定員90名のうち約60%が香川県内出身者であり、就職した卒業生の香川県内への就職率は55%前後となっている。今後、特に看護学科においては、3大学に1つは看護系学部がある<sup>3)</sup>中で、県内外からより多くの高校生に志望してもらえる魅力ある学科となることが求められている。

高校生の大学進学志望に関する研究は、教育学領域で1980年代まで盛んに行われており、高校3年生を対象として進学志望動機<sup>4)</sup>や、特定大学選択動機<sup>5)</sup>が明らかにされてきた。また、リクルートによる高校生の進路選択行動の変化を把握するための2年ごとの大規模調査が行われており、現在の高校生は、出口マーケットと入口の難易度を視野に入れた志願選択をしているといわれている<sup>6)</sup>。しかし、香川県内の高校生を対象とした進路選択に関連した研究はほとんどなされていない。

進路選択の研究は、進路指導に活用することを目的として実施されているが、地方の保健医療従事者養成大学にとって、進学希望である県内の高校生がどのような進路志向であるのかを知ることで、本学の情報をより効果的に発信するための示唆を得ることができる<sup>7)</sup>と考える。

なお、本研究では、進路志向を、進学する大学等および大学等の卒業後の進路に対する志向と定義する。

## 研究目的

進学希望である香川県内の高校生の進路志向を明らかにし、本学の情報をより効果的に発信するための示唆を得ることである。

## 研究方法

### 1. 研究デザイン

郵送質問紙調査による量的記述研究デザイン。

### 2. 対象者

本学を受験することの多い香川県内の20高校に在籍する高校生で、高校1年生及び2年生のうち大学等への進学希望を有する者とした。

### 3. データ収集方法

調査は、事前に教育委員会（高校教育課）の許可を得たのち、各高校の校長および進路指導担当教員へ依頼書

とともに調査票および返信用封筒を郵送した。大学等への進学希望者が多い各学年1クラスに調査票を配布するよう依頼した。また、高校生には同意のもと調査票への記入後返信用封筒に入れて郵便ポストに投函するよう依頼した。

### 4. データ収集期間

平成27年12月下旬～平成28年1月末日。

### 5. 調査内容

文献<sup>4, 5)</sup>をもとに独自に作成した無記名自記式調査票を用いた。調査内容は、①属性（学年・性別）、②進学希望動機、③特定の大学選択動機、④進学先の志望大学等の数と所在地、⑤進学分野（医学・芸術・教育・保健・経済・法など）を決めた時期と理由、⑥進学に関する情報入手の手段と内容、⑦進路に関する相談相手、⑧大学等の卒業後の進路予定とその程度についてであった。このうち②、③、⑤のうち理由、⑥のうち手段については重視した順位を第3位まで、⑥のうち内容については重視した程度を4段階で、重視した順位を第5位まで回答してもらった。なお、重視した順位には、今後重視するものも含む。

### 6. 分析方法

まず、調査項目のうち①属性、②進学希望動機、③特定の大学選択動機、④進学先の志望大学等の数と所在地、⑤進学分野を決めた時期と理由、⑥進学に関する情報入手の手段と内容、⑦進路に関する相談相手については度数と割合を求めた。⑥のうち内容を重視する程度、⑧大学等の卒業後の進路予定とその程度については、平均値と標準偏差を求めた。

次に、②、③、⑤のうち理由、⑥のうち手段については、重視した順に第1位に3点、第2位に2点、第3位に1点を加点し、また⑥のうち内容について重視した順に、第1位に5点、第2位に4点、第3位に3点、第4位に2点、第5位に1点を加点し、項目毎に合計点と得点率を算出した。

さらに、属性を“1年生男子”、“1年生女子”、“2年生男子”、“2年生女子”の4群に分け、群別に②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧とクロス集計し度数と割合、順位づけした項目では合計点と得点率を求めた。

また、大学等の卒業後の進路予定について、県内志向の程度を「卒業後すぐに香川県で働きたい」という質問に対し、「とてもそう思う」を“県内志向高群”、「少しそう思う」を“県内志向中群”、「あまりそう思わない」を“県内志向低群”、「全くそう思わない」を“県外志向群”の4群に分けた。そして群別に、①、②、③、④、⑤、⑥、⑦とクロス集計し度数と割合、順位づけした項目では合計点と得点率を求めた。

以上において、欠損値は質問項目毎に除外した。統計処理にはMicrosoft社のExcelを用いた。

## 倫理的配慮

調査について、事前に高校教育課の許可を得たのち、各高校の校長へ研究の趣旨を文書で説明し、協力を依頼

した。高校生に対しては、調査の目的、研究協力は自由意思で決定してよいこと、個人情報取り扱い及び研究資料の保存の方法と期間、無記名調査であること、データ処理は統計的に行い、個人が特定されることはないこと、成績等に一切影響しないこと、学会等への発表について調査票の前文で説明した。回答後は返信用封筒に封入し、そのまま郵便ポストに投函するよう依頼し、調査票が返信されたことで、調査協力の同意が得られたものとした。なお、本研究は、香川県立保健医療大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号174）。

## 結果

### 1. 対象者の概要（表1）

調査票の配布は1,364部であり、回収は1,285部（回収率94.2%）、そのうち非該当である就職希望者および進路未決定者を除き、有効回答数は1,220部（有効回答率94.9%）であった。学年は1年生603名（49.4%）、2年生617名（50.6%）であり、性別は男子544名（44.6%）、女子676名（55.4%）であった。

表1 対象者の属性

n=1220		
	人数(名)	割合(%)
1年生男子	251	20.6
1年生女子	352	28.9
2年生男子	293	24.1
2年生女子	324	26.6

### 2. 進路志向

#### 1) 全体の傾向

まず、進学希望動機は、「将来の就職など生活の安定のため」が556名（48.1%）と最も多く、次いで「専門的な知識や技術を学びたい」366名（31.7%）、「広く教養を身につけたい」99名（8.6%）、「大学等で多くの人と出会いたい」40名（3.5%）、「親など保護者が勧めるため」36名（3.1%）であった。また、第3位までを選択してもらい加点した合計点でも重視した順位は同様であった。

次に、進学分野の決定について、時期は、「高校1年生の夏休みまでに決めていた」が273名（22.5%）と最も多く、次いで「中学生で決めていた」270名（22.2%）、「高校1年生終わりまでに決めていた」201名（16.5%）、「高校2年生夏休みまでに決めていた」145名（11.9%）、「小学生で決めていた」70名（5.8%）であり、「決まっていない」は202名（16.6%）であった。理由は、「自分に合っていると思うから」が340名（30.2%）と最も多く、次いで「あこがれているから」212名（18.8%）、「就職に有利だから」177名（15.7%）であった。また、第3位までを選択してもらい加点した合計点では、「自分に合っていると思うから」、「あこがれているから」、「一生やりがいがありそうだから」の順であった（表2）。

志望大学等の決定については、「2つ～3つ程度に決めている」674名（55.5%）が最も多く、次いで「ほとんど決めていない」282名（23.2%）、「1つに決めている」211名（17.4%）であった。また、最も行きたい志望大学等の所在地は、「香川県」が323名（26.7%）と最も多く、次いで「関西地方」246名（20.3%）、「中国地方」

230名（19.0%）、「関東地方」131名（10.8%）、「香川県以外の四国3県」69名（5.7%）であった。「決まっていない」は151名（12.5%）であった。

特定大学選択動機は、「将来の志望職業と一致している」が372名（31.2%）と最も多く、次いで「自分の学力水準に合っている」245名（20.6%）、「自分の適性や好みに合っている」146名（12.3%）であった。また、第3位までを選択してもらい加点した合計点でも同様の順位で、次いで「学校の雰囲気が良い」、「学問の水準が高い」であった（表3）。

進学に関する情報入手の手段として最も重視したものは、「大学等のホームページ」379名（32.5%）であり、次いで「大学等のパンフレット」283名（24.3%）、「オープンキャンパス」278名（23.8%）、「高校の先生」135名（11.6%）、「進学している先輩」29名（2.5%）であった。また、第3位までを選択してもらい加点した合計点でも同様の順位であった（表4）。

進学に関する情報として重視した内容とその程度について、最も重視している程度が高かったのは「入試に関する情報」（平均値3.42±標準偏差0.74）、次いで「卒業後の進路（就職など）状況」（平均値3.36±標準偏差0.74）、「施設や設備の紹介」（平均値3.20±標準偏差0.76）であり、最も重視していなかった事柄は「サークル紹介」（平均値2.44±標準偏差0.88）、次いで「教員の研究活動の紹介」（平均値2.51±標準偏差0.80）、「卒業生のメッセージ」（平均値2.57±標準偏差0.86）であった。また、重視した順に第5位までを選択してもらい加点した合計点では、「卒業後の進路（就職など）状況」、「入試に関する情報」、「カリキュラム」、「授業紹介」、「施設や設備の紹介」の順であった（表5）。

進学に関する相談相手として最も多かったのは、「母親」668名（55.8%）であり、次いで「高校の先生」179名（14.9%）、「友人」173名（14.4%）であった。

進学先の大学等を卒業した後の進路予定については、最も考えている程度が高かったのは「県外でも実家への帰省が便利な地域で働きたい」（平均値2.90±標準偏差0.95）、次いで「希望する仕事に就けるなら、就職する地域はどこでも構わない」（平均値2.69±標準偏差0.94）、「県外で就職してもいつか香川県に帰って働きたい」（平均値2.67±標準偏差0.94）、「卒業後すぐに香川県で働きたい」（平均値2.49±標準偏差0.99）であり、最も考えている程度が低かったのは「香川県で就職できるなら職種にはこだわらない」（平均値1.66±標準偏差0.71）、次いで「海外で働きたい」（平均値1.80±標準偏差0.95）、「さらに大学院等に進学したい」（平均値1.92±標準偏差0.95）であった。

また、大学等の卒業後の進路予定について、県内志向の程度別の割合は、「県内志向高群」が227名（19.2%）であり、「県内志向中群」336名（28.5%）、「県内志低高群」410名（34.7%）、「県外志向群」208名（17.6%）であった。

#### 2) 学年・性別にみた傾向

進学希望動機については、第3位までを選択してもら

表2 学年・性別からみた進学分野の決定理由

	全体 (n=1127)	1年生男子 (n=231)	1年生女子 (n=322)	2年生男子 (n=270)	2年生女子 (n=304)
第1位	自分に合っていると 思うから	自分に合っていると 思うから	自分に合っていると 思うから	自分に合っていると 思うから	自分に合っていると 思うから
合計点(得点率)	1564 (23.1%)	339 (24.5%)	400 (20.7%)	427 (26.6%)	398 (21.8%)
第2位	あこがれているから	就職に有利だから	あこがれているから	あこがれているから	あこがれているから
合計点(得点率)	1096 (16.2%)	225 (16.2%)	392 (20.3%)	238 (14.8%)	326 (17.9%)
第3位	一生やりがい ありそうだから	楽しそうだから	一生やりがい ありそうだから	就職に有利だから	一生やりがい ありそうだから
合計点(得点率)	942 (13.9%)	204 (14.7%)	308 (15.9%)	215 (13.4%)	302 (16.6%)
第4位	就職に有利だから	一生やりがい ありそうだから	就職に有利だから	楽しそうだから	就職に有利だから
合計点(得点率)	879 (13.0%)	148 (10.7%)	220 (11.4%)	193 (12.0%)	219 (12.0%)
第5位	楽しそうだから	あこがれているから	楽しそうだから	一生やりがい ありそうだから	社会で活躍できそう だから
合計点(得点率)	770 (11.4%)	140 (10.1%)	216 (11.2%)	184 (11.4%)	160 (8.8%)

表3 学年・性別からみた特定大学選択動機

	全体 (n=1191)	1年生男子 (n=245)	1年生女子 (n=346)	2年生男子 (n=284)	2年生女子 (n=316)
第1位	将来の志望職業と 一致している	将来の志望職業と 一致している	将来の志望職業と 一致している	将来の志望職業と 一致している	将来の志望職業と 一致している
合計点(得点率)	1534 (21.5%)	282 (19.2%)	485 (23.4%)	300 (17.9%)	467 (24.6%)
第2位	自分の学力水準に 合っている	自分の学力水準に 合っている	自分の適性や好みに 合っている	自分の学力水準に 合っている	自分の学力水準に 合っている
合計点(得点率)	1084 (15.2%)	274 (18.6%)	307 (14.8%)	255 (15.2%)	257 (13.6%)
第3位	自分の適性や好みに 合っている	自分の適性や好みに 合っている	自分の学力水準に 合っている	自分の適性や好みに 合っている	自分の適性や好みに 合っている
合計点(得点率)	971 (13.6%)	188 (12.8%)	298 (14.4%)	246 (14.6%)	230 (12.1%)
第4位	学校の雰囲気が良い	学問の水準が高い	学校の雰囲気が良い	学問の水準が高い	学校の雰囲気が良い
合計点(得点率)	655 (9.2%)	124 (8.4%)	203 (9.8%)	218 (13.0%)	197 (10.4%)
第5位	学問の水準が高い	学校の雰囲気が良い	家庭の経済事情が 許せる	学校の雰囲気が良い	家庭の経済事情が 許せる
合計点(得点率)	589 (8.2%)	118 (8.0%)	165 (7.9%)	137 (8.2%)	167 (8.8%)

い加点した合計点では、学年・性別に関わらず「将来の就職など生活の安定のため」が最も高く、次いで「専門的な知識や技術を学びたい」、「広く教養を身につけたい」、「大学等で多くの人と出会いたい」、「親など保護者が勧めるため」の順であった。

次に、進学分野を決定した時期については、「1年生」男女ともに「小学生で決めていた」3.2%・8.0%や「中学生で決めていた」24.0%・27.9%と、高校入学前に決めていた生徒もみられたが、「高校1年生夏休みまでに決めていた」が36.4%・29.3%で最も多く、「高校1年生終わりまでに決めていた」が12.4%・12.0%みられた。「2年生」は男女共に「高校2年生夏休みまでに決めていた」が24.4%・22.6%と最も多く、「高校2年生終わりまでに決めていた」が8.6%・8.0%みられた。「決まっていない」は「1年生」男女では23.2%・22.8%みられたが、「2年生」男女では11.0%・9.9%であった。

進学分野を決定した理由は、第3位までを選択してもらい加点した合計点では、学年・性別に関わらず「自分に合っていると思うから」が最も多かったが、次いで1・2年生“女子”は「あこがれているから」、「一生やりがいがありそうだから」であり、「1年生男子」は「就職に有利だから」、「楽しそうだから」、「2年生男子」は「あこがれているから」、「就職に有利だから」と続き、男女にやや違いがみられた(表2)。

志望大学等の決定については、「1年生」男女共「1つに決めている」、「2つ～3つ程度に決めている」が合わせて60.0%であり、「ほとんど決めていない」、「まったく決めていない」が40.0%であった。「2年生」男女は「1つに決めている」、「2つ～3つ程度に決めている」が合わせて85.2%・85.7%と多く、「ほとんど決めていない」、「まったく決めていない」は14.8%・14.3%と少なかった。

最も行きたい志望大学等の所在地については、学年・性別に関わらず、「香川県」が最も多く、1・2年生“女子”は28.9%・31.9%が「香川県」の大学等を志望しており、1・2年生“男子”の19.7%・24.3%より多かった。県外では、「2年生男子」は「中国地方」23.6%、「関西地方」15.4%と続いており、「1年生」男女・「2年生女子」は「関西地方」17.7%・22.3%・24.7%、「中国地方」16.1%・15.7%・20.6%の順であった。

特定大学選択動機については、学年・性別に関わらず「将来の志望職業と一致している」が最も多かった。次いで、「1年生男子」・2年生“男女”は、「自分の学力水準に合っている」、「自分の適性や好みに合っている」と続き、「1年生女子」は「自分の適性や好みに一致している」、「自分の学力水準に合っている」の順であった。次いで、1・2年生“男子”は「学問の水準が高い」、「学校の雰囲気が良い」が続き、1・2年生“女子”は「学校の雰囲気が良い」、「家庭の経済事情が許せる」が続いており、男女にやや違いがみられた(表3)。

また、進学のための情報入手手段で重視する順位について、第3位まで選択してもらい加点した合計点では、1・2年生“女子”では「大学のパンフレット」が最も高く、次いで「大学等のホームページ」、「オープンキャンパス」、「高校の先生」であった。「1年生男子」は「大学等のホームページ」、「大学のパンフレット」、「高校の先生」、「オープンキャンパス」の順であり、「2年生男子」は「大学等のホームページ」、「大学のパンフレット」、「オープンキャンパス」、「高校の先生」の順であった(表4)。

進学に関する情報として重視した内容について、第5位までを選択してもらい加点した合計点では、学年・性別に関わらず「卒業後の進路(就職など)状況」が最も高く、次いで1・2年生“男子”・「1年生女子」では

表4 学年・性別からみた進学に関する情報入手の手段

	全体 (n=1166)	1年生男子 (n=244)	1年生女子 (n=341)	2年生男子 (n=274)	2年生女子 (n=307)
第1位	大学等のホームページ	大学等のホームページ	大学等のパンフレット	大学等のホームページ	大学等のパンフレット
合計点(得点率)	1849 (26.4%)	409 (27.9%)	524 (25.6%)	475 (28.9%)	500 (27.1%)
第2位	大学等のパンフレット	大学等のパンフレット	大学等のホームページ	大学等のパンフレット	大学等のホームページ
合計点(得点率)	1814 (25.9%)	368 (25.1%)	481 (23.5%)	422 (25.7%)	484 (26.3%)
第3位	オープンキャンパス	高校の先生	オープンキャンパス	オープンキャンパス	オープンキャンパス
合計点(得点率)	1503 (21.5%)	254 (17.3%)	464 (22.7%)	344 (20.9%)	451 (24.5%)
第4位	高校の先生	オープンキャンパス	高校の先生	高校の先生	高校の先生
合計点(得点率)	1026 (14.7%)	244 (16.7%)	314 (15.3%)	226 (13.7%)	232 (12.6%)
第5位	進学している先輩	進学している先輩	進学している先輩	進学している先輩	進学している先輩
合計点(得点率)	269 (3.8%)	61 (4.2%)	70 (3.4%)	60 (3.6%)	78 (4.2%)

表5 学年・性別からみた進学に関する情報入手の内容

	全体 (n=890)	1年生男子 (n=194)	1年生女子 (n=269)	2年生男子 (n=210)	2年生女子 (n=217)
第1位	卒業後の進路 (就職など) 状況				
合計点(得点率)	2165 (16.2%)	492 (16.9%)	617 (15.3%)	503 (16.0%)	553 (17.0%)
第2位	入試に関する情報	入試に関する情報	入試に関する情報	入試に関する情報	カリキュラム
合計点(得点率)	2002 (15.0%)	448 (15.4%)	605 (15.0%)	499 (15.8%)	508 (15.6%)
第3位	カリキュラム	施設や設備の紹介	カリキュラム	カリキュラム	入試に関する情報 / 授業紹介
合計点(得点率)	1891 (14.2%)	393 (13.5%)	575 (14.3%)	444 (14.1%)	
第4位	授業紹介	カリキュラム	授業紹介	施設や設備の紹介	
合計点(得点率)	1748 (13.1%)	364 (12.5%)	559 (13.9%)	410 (13.0%)	450 (13.8%)
第5位	施設や設備の紹介	授業紹介	施設や設備の紹介	授業紹介	施設や設備の紹介
合計点(得点率)	1619 (12.1%)	346 (11.9%)	460 (11.4%)	393 (12.5%)	356 (10.9%)

「入試に関する情報」が第2位であり、やや順位は異なるが「カリキュラム」、「授業紹介」、「施設や設備の紹介」、「基本理念とアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)」が続いた(表5)。

進学に関する相談相手は、学年・性別に関わらず「母親」が多く、1・2年生“女子”では68.2%・59.0%，“1年生男子”で52.2%，“2年生男子”で40.1%であった。次いで、1・2年生“女子”では「友人」11.2%・15.8%、「高校の先生」8.0%・13.2%、「父親」7.2%・5.7%であり、1・2年生“男子”では「高校の先生」16.9%・23.5%、「友人」14.4%・17.0%、「父親」10.7%・12.8%であった。

進学先の大学等を卒業した後の進路予定について、考えている程度が最も高かったのは、1・2年生“男子”では「希望する仕事に就けるなら、就職する地域はどこでも構わない」であり、次いで「県外でも実家への帰省が便利な地域で働きたい」、「県外で就職してもいつか香川県に帰って働きたい」であった。1・2年生“女子”では、「県外でも実家への帰省が便利な地域で働きたい」が最も高く、次いで「県外で就職してもいつか香川県に帰って働きたい」であった。「卒業後すぐに香川県で働きたい」は、“2年生女子”では第3位，“1年生”男女・“2年生男子”では第4位であった。

表6 大学等卒業後の進路の県内志向程度からみた進学分野の決定理由

	全体 (n=1094)	県内志向高群 (n=217)	県内志向中群 (n=308)	県内志向低群 (n=378)	県外志向群 (n=191)
第1位	自分に合っていると思うから	自分に合っていると思うから	自分に合っていると思うから	自分に合っていると思うから	自分に合っていると思うから
合計点(得点率)	1515 (23.1%)	252 (19.4%)	423 (22.9%)	551 (24.6%)	289 (25.2%)
第2位	あこがれているから	一生やりがいがありそうだから	あこがれているから	あこがれているから	あこがれているから
合計点(得点率)	1065 (16.2%)	238 (18.3%)	284 (15.4%)	361 (16.1%)	197 (17.2%)
第3位	一生やりがいがありそうだから	あこがれているから	一生やりがいがありそうだから	就職に有利だから	楽しそうだから
合計点(得点率)	914 (13.9%)	223 (17.1%)	257 (13.9%)	297 (13.2%)	159 (13.9%)
第4位	就職に有利だから	就職に有利だから	就職に有利だから	楽しそうだから	一生やりがいがありそうだから/ 就職に有利だから
合計点(得点率)	857 (13.1%)	182 (14.0%)	235 (12.7%)	292 (13.0%)	
第5位	楽しそうだから	社会で活躍できそうだから	楽しそうだから	一生やりがいがありそうだから	
合計点(得点率)	744 (11.3%)	112 (8.6%)	201 (10.9%)	276 (12.3%)	143 (12.5%)

### 3) 大学等卒業後の進路の県内志向程度別にみた傾向

最も重視した進学希望動機について、第3位までを選択してもらい加点した合計点では、県内志向程度に関わらず「将来の就職など生活の安定のため」が最も高く、次いで「専門的な知識や技術を学びたい」、「広く教養を身につけたい」、「大学等で多くの人と出会いたい」、「親など保護者が勧めるため」の順であった。

次に、進学分野を決定した時期については、県内志向程度に関わらず、「中学生で決めていた」または「高校1年生夏休みまでに決めていた」が第1位・第2位を占め、「高校1年生終わりまでに決めていた」または「決まっていない」が第3位・第4位を占めていた。

進学分野を決定した理由は、第3位までを選択してもらい加点した合計点では、県内志向程度に関わらず、「自分に合っていると思うから」が最も高く、次いで“県内志向高群”では「一生やりがいがありそうだから」、「あこがれているから」、「就職に有利だから」、「社会で活躍できそうだから」であった。“県内志向中群”・“県内志向低群”・“県外志向群”では、第2位は「あこがれているから」であり、以下「楽しそうだから」、「就職に有利だから」、「一生やりがいがありそうだから」とやや順位に違いはあるが第5位までに挙がっていた(表6)。

表7 大学等卒業後の進路の県内志向程度からみた特定大学選択動機

	全体 (n=1153)	県内志向高群 (n=223)	県内志向中群 (n=330)	県内志向低群 (n=402)	県外志向群 (n=198)
第1位	将来の志望職業と一致している	将来の志望職業と一致している	将来の志望職業と一致している	将来の志望職業と一致している	将来の志望職業と一致している
合計点(得点率)	1490 (21.5%)	354 (26.5%)	416 (21.0%)	469 (19.7%)	251 (21.1%)
第2位	自分の学力水準に合っている	自分の学力水準に合っている	自分の学力水準に合っている	自分の適性や好みに合っている	自分の適性や好みに合っている
合計点(得点率)	1044 (15.1%)	217 (16.2%)	341 (17.2%)	382 (16.0%)	198 (16.7%)
第3位	自分の適性や好みに合っている	通学に便利である	自分の適性や好みに合っている	自分の学力水準に合っている	学問の水準が高い
合計点(得点率)	944 (13.6%)	159 (11.9%)	252 (12.7%)	361 (15.2%)	160 (13.5%)
第4位	学校の雰囲気が良い	自分の適性や好みに合っている	学校の雰囲気が良い	学校の雰囲気が良い	自分の学力水準に合っている
合計点(得点率)	645 (9.3%)	112 (8.4%)	195 (9.8%)	241 (10.1%)	125 (10.5%)
第5位	学問の水準が高い	家庭の経済事情が許せる	家庭の経済事情が許せる	学問の水準が高い	学校の雰囲気が良い
合計点(得点率)	573 (8.3%)	99 (7.4%)	117 (8.9%)	203 (8.5%)	113 (9.5%)

志望大学等の決定については、4群すべてにおいて、「2つ～3つ程度に決めている」が最も多く、特に「県内志向高群」は61.7%と4群中最も多かった。「1つに決めている」も「県内志向高群」が24.7%と最も多かった。

最も行きたい志望大学等の所在地については、「県内志向高群」は、「香川県」が61.2%と最も多く、次いで「中国地方」15.9%、「関西地方」7.0%と続いた。「県内志向中群」では「香川県」が31.0%と最も多く、「中国地方」21.2%、「関西地方」19.1%と続いた。「県内志向低群」では「関西地方」が24.9%と最も多く、次いで「中国地方」20.2%であり、「香川県」は15.5%と第3位であった。そして、「県外志向群」は第1位が「関東地方」31.9%であり、次いで「関西地方」27.9%、「中国地方」16.2%、「中部地方」5.4%と続き、「香川県」は3.9%の第5位であった。

特定大学選択動機については、県内志向程度に関わらず、「将来の志望職業と一致している」が最も多く、「県内志向高群」では第2位が「自分の学力水準に合っている」、第3位が「通学に便利である」、第4位が「自分の適性や好みに合っている」、第5位「家庭の経済事情が許せる」と続いた。「県内志向中群」では、第2位が「自分の学力水準に合っている」、第3位が「自分の適性や好みに合っている」、第4位が「学校の雰囲気が良い」、第5位「家庭の経済事情が許せる」と続いた。「県内志向低群」では、第2位が「自分の適性や好みに合っている」、第3位が「自分の学力水準に合っている」、第4位が「学校の雰囲気が良い」、第5位「学問の水準が高い」と続いた。「県外志向群」では、第2位が「自分の適性や好みに合っている」、第3位が「学問の水準が高い」、第4位が「自分の学力水準に合っている」、第5位「学校の雰囲気が良い」と続き、県内志向の程度により、特定大学選択動機の優先順位にやや違いがみられた(表7)。

進学に関する情報入手の手段として最も重視したのは、第3位までを選択してもらい加点した合計点では、県内志向程度に関わらず、「大学等のホームページ」と「大学等のパンフレット」が第1位および第2位を占め、次いで「オープンキャンパス」、「高校の先生」の順であった(表8)。

進学に関する情報として重視した内容については、第5位までを選択してもらい加点した合計点では県内志向程度に関わらず、「卒業後の進路(就職など)状況」、「入試に関する情報」、「カリキュラム」、「授業紹介」、「施設

や設備の紹介」が第5位までを占めていた(表9)。

進学に関する相談相手は、県内志向程度に関わらず、「母親」が多く、「県内志向高群」では65.9%、「県内志向中群」56.6%、「県内志向低群」51.8%、「県外志向群」51.2%であった。次いで、「県内志向高群」・「県内志向中群」では「高校の先生」13.3%・18.0%、「友人」8.8%・14.1%、「父親」6.6%・7.5%であり、「県内志向低群」・「県外志向群」では「友人」16.9%・16.9%、「高校の先生」15.2%・11.6%、「父親」10.3%・10.1%の順であった。

## 考察

進学を希望している香川県内の高校生の進路傾向は、将来の就職など生活の安定や専門知識・技術の修得を重視すると共に、幅広い教養や人との出会いも求めて大学等への進学を決定しており、「大学の経済価値機能」および「大学の本来的功能」<sup>4)</sup>を重視した進学動機といえる。

進学分野の決定時期は、高校入学前が28.0%、高校1年生の夏休みまでが22.5%であり、高校1年生の終わりまでには67.0%の生徒が分野を決定していた。大学進学者を対象とした調査<sup>7)</sup>において、進学分野を考え始めた時期は、高校入学前が21.3%、高校1年生が27.3%、進学分野を決定した時期は高校1年生が18.0%と、両者ともに高校1年生が最も多かったことが報告されている。2004年に総合学習の時間等を使った進路学習が若年時から授業に組み込まれた結果、全体的に進路選択行動が早期化しており、香川県の高校生も同様の傾向と推察する。

進学分野の選択は自分の適性を第一に考え、あこがれや一生の仕事としてのやりがい、就職の有利性を重視して決定していた。そして、特定の志望大学選択は、将来の志望職業との一致性が最も重要であり、次いで自分の学力や適性、好みと合う大学を希望する傾向がみられた。平成27年に県外の大学へ進んだ者を対象とした調査<sup>1)</sup>では、6割が「学部や学科が志望にあっていた」と回答していた。これらのことより、高校生は、分野選択の段階から一貫して自分の適性との適合を考えながら、将来の職業を就職状況も視野に入れつつ考えており、志望職業につながる学部・学科であることと入学可能性という現実および好みとをすり合わせるという「自己実現への適合」と「入学可能性」<sup>4)</sup>を重視した特定志望大学選択を行っているといえる。また、「県内志向高群」の特定志望大学選択理由の第3位に「通学に便利である」が挙がっており、通学の利

表8 大学等卒業後の進路の県内志向程度からみた進学に関する情報入手の手段

	全 体 (n=1129)	県内志向高群 (n=219)	県内志向中群 (n=323)	県内志向低群 (n=393)	県外志向群 (n=194)
第1位	大学等のホームページ	大学等のパンフレット	大学等のパンフレット	大学等のホームページ	大学等のホームページ
合計点(得点率)	1785 (26.4%)	332 (25.3%)	524 (27.0%)	629 (26.7%)	333 (28.6%)
第2位	大学等のパンフレット	大学等のホームページ	大学等のホームページ	大学等のパンフレット	大学等のパンフレット
合計点(得点率)	1754 (25.9%)	311 (23.7%)	512 (26.4%)	585 (24.8%)	313 (26.9%)
第3位	オープンキャンパス	オープンキャンパス	オープンキャンパス	オープンキャンパス	オープンキャンパス
合計点(得点率)	1463 (21.6%)	294 (22.4%)	406 (20.9%)	519 (22.0%)	244 (21.0%)
第4位	高校の先生	高校の先生	高校の先生	高校の先生	高校の先生
合計点(得点率)	997 (14.7%)	234 (17.8%)	285 (14.7%)	347 (14.7%)	131 (11.3%)
第5位	進学している先輩	進学している先輩	進学している先輩	進学している先輩	ツイッターなどの ソーシャルネットワーク
合計点(得点率)	259 (3.8%)	55 (4.2%)	81 (4.2%)	89 (3.8%)	50 (4.3%)

表9 大学等卒業後の進路の県内志向程度からみた進学に関する情報入手の内容

	全 体 (n=872)	県内志向高群 (n=169)	県内志向中群 (n=252)	県内志向低群 (n=302)	県外志向群 (n=149)
第1位	卒業後の進路 (就職など) 状況	卒業後の進路 (就職など) 状況	入試に関する情報	卒業後の進路 (就職など) 状況	卒業後の進路 (就職など) 状況
合計点(得点率)	2109 (16.1%)	470 (18.5%)	607 (16.1%)	716 (15.8%)	347 (15.5%)
第2位	入試に関する情報	入試に関する情報	卒業後の進路 (就職など) 状況	カリキュラム	カリキュラム
合計点(得点率)	1976 (15.1%)	452 (17.8%)	576 (15.2%)	659 (14.5%)	313 (14.0%)
第3位	カリキュラム	施設や設備の紹介	カリキュラム	入試に関する情報	入試に関する情報
合計点(得点率)	1848 (14.1%)	316 (12.5%)	574 (15.2%)	611 (13.5%)	306 (13.7%)
第4位	授業紹介	カリキュラム	授業紹介	授業紹介	授業紹介
合計点(得点率)	1719 (13.1%)	302 (11.9%)	516 (13.7%)	610 (13.5%)	301 (13.5%)
第5位	施設や設備の紹介	授業紹介	施設や設備の紹介	施設や設備の紹介	施設や設備の紹介
合計点(得点率)	1585 (12.1%)	292 (11.5%)	429 (11.3%)	565 (12.5%)	275 (12.3%)

便性も重要な情報であるといえる。そして、「県内志向高群」および「県内志向中群」の第5位に「家庭の経済事情が許せる」がみられており、特定の志望大学選択への家庭の経済力の影響がうかがえる。

大学等卒業後の進路予定は、「希望する仕事に就けるなら、就職する地域はどこでも構わない」と考える生徒が「県外でも実家への帰省が便利な地域で働きたい」に次いで多く、「卒業後すぐに香川県で働きたい」生徒はより少なく約2割であった。卒業後すぐの県内就職を希望している生徒は希望する職種での県内就職の見通しを持つ生徒である可能性が考えられる。

以上のことから、大学として本学の情報をより効果的に発信するためには、対象となる高校生が進路選択プロセスのどの段階にいるのかを意識することが重要であり、段階に応じて必要となる情報を適切な方法で提供することが必要といえる。

まず、進学分野を選択する時期の高校生に対しては、今後も進学ガイダンス等の機会に、自分の適性ととの適合について検討できるように看護職または臨床検査技師の特性や求められる能力・資質および教育内容・方法について情報提供し、加えて一生のやりがいがあることも進学分野の選択要因であるため、大学院への進学等の継続教育を含めた生涯にわたるキャリア形成についてもイメージできるようにモデルを示すこと、また、卒業後の進路および職種毎に就職先を具体的に情報提供する必要性が示唆された。なお、高校における進路選択の流れの中で、自己の適性把握ができていないまま、希望する進路だけ決める生徒の存在が指摘されている<sup>8)</sup>。高校生が自己の適性を把握したうえで分野選択をする重要性を伝えることも必要であろう。

進学分野を選択する高校生に対する情報発信の時期としては、本研究の結果および先行研究<sup>7)</sup>から高校1年生の夏休み前までが適当と考える。この時期に実施される

進学ガイダンスは有効な機会であり、その他にも進路分野を決定していない時期の高校生に前述の情報提供を行う機会を設けることも必要と考える。さらに、分野を決めていない対象者への情報提供の機会として、小・中学生と関わる機会を拡大することも有効と考える。

次に、特定の志望大学を選択する時期の高校生に対しては、看護職または臨床検査技師についての情報提供も必要であるが、今後も、特に本学で学ぶことが志望職業に就くために適性かつ有効であると判断できるよう、取得資格や国家試験合格率および卒業生の進路の情報提供を継続し、加えて、他の大学等と異なる本学の強みを学問の水準も含めて説明すること、受験生にとっての学力水準の目安となるよう、入試に関する情報、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）、対象高校生の高校からの本学への進学状況および卒業後の進路について情報提供することが重要である。特に、学校の雰囲気の良いことや通学の利便性・経済性、授業料減免制度・奨学金等の制度に関しても情報提供する必要性が示唆された。

高校生が特定の志望大学を選定する時期については、本研究結果では志望校を3つ程度まで絞っている1年生が60%、2年生が約85%であったこと、大学進学者を対象とした調査<sup>7)</sup>においては、「どんな学校があるかを調べ始めた時期」が年々早期化しており、2009年では「高校1年」が24.0%と最も多く、「最終的に入学した学校に関心を持った時期」は「高校3年生の8月～9月」が16.9%と最も多かったことを考え合わせると、高校1年生の時期から検討を始め、高校3年生の段階でも流動的であることがうかがえる。したがって、特定の志望大学を選択する高校生に対する情報発信の時期として、香川県内の高校生に対しては、高校1年生の夏休み頃から高校3年生の夏休み頃までが重要と考える。この期間に開催される進学ガイダンスやオープンキャンパス等は有効であり、特に、学校の雰囲気を伝える機会としてのオー

ブンキャンパスの意味合いは大きい。

高校生は進学に関する情報の入手手段として、「大学等のホームページ」,「大学等のパンフレット等」の媒体や「オープンキャンパス」,「高校の先生」を重視しており、内容として「卒業後の進路(就職など)状況」,「入試に関する情報」のほか「カリキュラム」,「授業紹介」,「施設や設備の紹介」を重視していることが明らかとなった。したがって、大学のホームページおよび大学案内等のパンフレットに高校生が必要とする情報を掲載することが重要である。今後、卒業後の進路(就職など)状況については職種毎に記載すること、また前述のとおり、一生のやりがいのある職業であることを伝えるため、大学院に進学した卒業生等のキャリア形成のモデルを示すことも必要であろう。また大学ホームページについては、必要な情報をさらに閲覧しやすいように工夫することも重要であろう。

また、進学に関して最もよく相談する相手は「母親」が5割以上と多く、先行研究<sup>9, 10)</sup>と同様の結果であった。また、子どもの進学を希望する保護者にとって、進学先検討で重要な情報は、「現在の入試制度の仕組み」,「通学費用」,「将来の職業との関連」,「学部・学科の内容」,「就職の状況」の順であったことが報告されている<sup>10)</sup>。母親への情報提供の機会であるオープンキャンパスや進学説明会等における情報発信の重要性が示唆された。また、家族からの情報やアドバイスに最も影響を受けるのは、就職か進学か、進学先の学校種の選択ほか、将来の仕事について考え始めた高校入学前の時期であることが報告されている<sup>11)</sup>。小・中学生の母親への情報提供も有効である可能性がある。

そして、進学に関する情報の入手対象者として「高校の先生」を最も重視していた。高校教員からの情報やアドバイスに最も影響を受けたのは、文理選択のほか、受験科目選択、最終的な入学校に関心を持った時期や入学校を決定した時期などであり、要所において重要な役割を果たす存在であることは明らかである。また、生徒の適性との適合を考慮した進路選択の観点からも重要な存在であるため、高校訪問や大学紹介・入試説明会等の機会に、卒業後の進路および入試に関する情報のみならず、看護職または臨床検査技師の特性や求められる能力・資質および教育内容・方法について説明するとともに、高校生の状況および高校教員のニーズを把握し連携を推進することが重要である。そして、これらの基盤として高校生、保護者、高校教員から選択される更に魅力ある大学づくりが必要である。

### 本研究の限界と今後の課題

本研究は、回収率の高さにより調査において強制力が働いた可能性を否定できない。また、今回は高校1年生および2年生を対象に実施したが、受験時期の進路志向を明らかにするためには、今後3年生を対象にした調査の実施が必要と考える。

### おわりに

本学を受験することの多い香川県内の20高校に在籍する高校1年生および2年生のうち、大学等への進学希望を有する者の進路志向を調査し、特に学年・性別と大学等卒業後の進路予定別の傾向を明らかにした。近年進路選択行動が早期化している中で、県立大学として有効な情報発信の時期と対象、内容と方法についての示唆を得ることができた。

### 謝辞

本調査にご協力いただきました香川県高校教育課の皆様、高校の教員の皆様と生徒の皆様にご心から感謝いたします。

なお、本研究は、平成27年度香川県大学等魅力づくり補助金の交付を受けて実施したものです。

### 文献

- 1) 人口減歯止め重点. 読売新聞. 2015年5月26日朝刊.
- 2) 香川県, かがわ創生総合戦略～人口減少の克服と地域活力の向上～, 1-95, 2015.
- 3) 旺文社教育情報センター. 3大学に1校が看護学科! 「大学と言えば看護」の時代!? 26年度の新増設は“スーパー看護ラッシュ”! . 2015-10-15入手. [http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/educational\\_info/2014/0107.pdf](http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/educational_info/2014/0107.pdf)
- 4) 湖上克義. 大学進学決定におよぼす要因ならびにその人的影響源に関する研究. 教育心理学研究32(3): 65-69, 1984.
- 5) 湖上克義. 進学希望の意思決定過程に関する研究. 教育心理学研究32(1): 59-63, 1984.
- 6) 寺裏誠司. アベノミクス・東京五輪の影響で変化の兆しが見える「学科のマーケット・トレンド」. リクルートカレッジマネジメント190: 21-27, 2015.
- 7) 佐々木泉美, 能地泰代, 松本恵. リクルート「進学センサス2009」報告—高校生の進路選択行動を科学する. リクルートカレッジマネジメント158: 4-30, 2009.
- 8) 鹿内啓子. 高校生の進路決定と仕事への構えについての一考察. 北星学園大学文学部北星論集46(2): 35-45, 2009.
- 9) 鹿内啓子. 高校生における先生・親への進路相談と進路意識との関連. 北星学園大学文学部北星論集52(2): 1-9, 2015.
- 10) 佐野元彦, 森崎綾子, 中島淳二. 第7回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」2015年報告書: 1-71, 2016.
- 11) 能地泰代. 高まる実学志向“身近で手堅く”進路選択. リクルートカレッジマネジメント181: 6-29, 2013.

受付日 2016年9月30日

受理日 2017年1月24日